

令和元年度 女性委員・会員等と議会の意見交換会 (記録)

1. 開催日時 令和元年 11 月 17 日 (日曜日) 午前 10 時 00 分～午前 11 時 30 分
2. 会 場 胎内市役所 4 階 (①全員協議会室、②委員会室、③応接室)
3. 実施要領 常任委員会別に 3 グループに分け、それぞれのテーマを設定し意見交換を実施。
4. 参加者 20 名 (市内の女性委員・会員【15 団体】)
青少年育成市民会議、市 P T A 連絡協議会、胎内市消防団、日の出保育園、ついじ保育園、さわらび保育園、胎内市介護予防・日常生活支援体制整備推進協議会、中条町商工会女性部、胎内市民生児童委員連合会、保健推進委員、中条高等学校、黒川商工会女性部、農村地域生活アドバイザー、胎内市男女共同参画推進委員会、株式会社小国製麺
5. 意見交換内容

【1 班】 テーマ：『子育て・教育・学びについて』

(子育て支援、子どもの教育、生涯学習環境等)

【参加者】

*女性：7 名

*議員：総務文教常任委員会 (5 名)

委員長 八幡 元弘 、 副委員長 坂上 清一

委員 小野 徳重 、 桐生 清太郎 、 天木 義人

【八幡元弘委員長のコメント】

子育て、教育、生涯学習環境などをテーマとして女性委員に参加いただきました。女性の視点で、生涯学習施設、開放的な公園、ファミリーサポート、小中学校の現状と将来、メディアコントロールなどについて、活発な意見交換が行われ、議会活動・委員会活動にとって大いに参考となりました。

【発言要旨】

1. 近隣市町村と比べて、図書館・公民館が古くて上手に使われていない。新しくして、子

どもたちに便利な施設にしてほしい。

2. 土地がいっぱいありそうなので、無料で遊べる公園を作してほしい。
3. 小さい子が遊べる公園が少ない。北公園は、開放的でなく死角になっていて安全でない。
もし、作るなら雨でも晴れでも遊べるような施設がほしい。
4. 全天候型の施設が本当にほしい。ただ、屋根があるだけでもいいから何かないか。安全な原っぱがあってもいいと思う。中・高校生が使いやすいスペース（教育施設等）があったらいい。中・高校生が気軽に使えるところがない。
5. 公園で駐車場もあって、雨の日でも室内でアスレチックができるような施設ができたらいい。
6. 高校生（中高一貫校生含む）が親の迎えが来るまで待つ施設が中条駅周辺に全然ない。
7. 小さいながらも博物館や体験できる施設等いろいろあり、教育委員会の人に来て昔の社会のことを教えることができるので、経費はかかるがこのまま維持してほしい。
8. ファミリーサポート制度は、すごく安心して受けられる制度でありがたかった。しかし、支払いは現金で子どもの前で渡さなければならないので改善してほしい。例えば、手間はかかるが、市役所でも支払いができるなど。
9. 送迎があるだけで、なかよしクラブには行きたくないという子が多くて、ファミリーサポートが増えていると聞いたが、なかよしクラブはなくさないでほしい。
10. ファミリーサポートの支援を受ける側は知っていると思うが、提供する側の方が知らないで、もっとこのサポート制度をアピールしてほしい。市報だけでなく、何かの機会に情報発信したらいいのでは。
11. ファミリーサポートは、利用する側は必死に探すけど、提供する側は言われないと知らない人が多いので、お知らせの仕方に工夫したらいいのでは。
12. 提供する側は年配の方が多く、市報を読むからいいと思う。
13. 市の情報を市報に載せているというけど、市報はあまり読まないで、もう少し「こんな事業ありますよ」など、いろいろな手段でもっとアピールしてほしい。（市報は、最後のページしか見ない。若い人はもっと見ない）
14. ファミリーサポートは、情報が少なくて制度を知らなかった。
15. ファミリーサポート制度について、3歳までの子どもの検診時に保健師の方が教えてくれたので、子どもが小さい時から利用している。
16. 市報のお知らせ版に載せるとか、検診時に保健師に言ってもらったり、手紙で郵送、小学生なら年1回4月に配布すればだいぶ違うのではないかと。核家族化で特に若い世代は、ファミサポがもっと広がることで違ってくる。

17. 幼児を預かるのは自信がないが、小学生の送迎ならできる。
18. ファミリーサポートは、最低1週間前の予約だが、子育てで限界を感じることもあるので電話、窓口相談等、緊急SOSみたいな制度があったらうれしい。
19. 顔合わせをしておけば、受け手の方の都合が良ければ、前日でも大丈夫だった。
20. 他市の方から、胎内市は教育にすごく力を入れていて、子どもを育てるにはいい環境であると聞いたが、自分自身も子どもを育てるには自然もいっぱいあっていい環境だと思う。しかし、小さい子は何となく遊べるが、小学生になると何処にも遊びに行ける場所がないと感じていて、そのような場所（施設）があったらいい。
21. 胎内市の男女共同参画社会になるための各課の取組を見たが、ただ活動を市報に載せるということが多かった。活動を市報に載せてやっているようでは違う気がする。
22. 市報に載せただけでは、市民に伝えたことにならない。しかし、言葉で伝えることが逆に新しいのかも。いろいろ試してほしい。
23. 小中学校の統廃合については、遠い問題ではなく、身近な問題として考えていかなければならない時代である。要因として、中学受験で市外の中学校に行く子どもが増えていることと、部活動の関係で区域外通学する子どもが増えている。
24. 小中一貫校では、部活問題の解決にならない。
25. 胎内市がコミュニティースクールを実施していて、メリットがある。
26. 市民会議で力を入れているのは、メディアコントロール。小中学校は、学校が主体となり実施しているが、保育園ではやっていないと思う。幼児の時から親が危険ということを教育してもらいたい。
27. メディアコントロールの講演会等を保育園スタート時や園の保護者会でやってもらいたい。前に樽ヶ橋で実施したが、参加者が少なく、残念な結果だった。目が悪くなったり依存症が怖い。
28. 胎内市ならではの地元に住んでいての利点があると良い。例えば、スキー場で市民だけ無料の日の特典など（土曜日は、市民の子ども無料の日など）
29. 英語を学習しにイリノイに通っているが、補助がなくなったこともあり、習っている子どもが少ない。なんとかならないか。
30. 中条小学校の通学路が狭い。校舎が老朽化で雨漏り等があり、今後どうなるのか。
31. 黒川中学校の通学路にひび割れのあるすごく高い塀があり危険であるが、改善されていない。市から指導してもらいたい。
32. 小学校の通学路でも低い塀が多くあるが、市はどのように指導しているのか。

【2班】テーマ：『健康・福祉について』

(健康づくり、地域支え合い活動、介護予防等)

【参加者】

*女性：6名

*議員：厚生環境常任委員会（5名）

委員長 森本 将司、副委員長 羽田野 孝子
委員 渡辺 宏行、渡辺 俊、坂上 隆夫

【森本将司委員長のコメント】

健康・福祉をテーマとして多くの参加者からお茶の間サロンや通いの場に関する意見が多く聞かれ、地域コミュニティに対する関心の高さを感じました。

また、健康づくりの運動指導やレシピ、健康調査の見廻りや産婦人科や介護施設に対するものなど多岐に渡り、非常に有意義な意見交換となりました。いただいたご意見をもとに市政に活かせるよう取り組んで参ります。

【発言要旨】

1. 11月6日NHKテレビを途中から見たので、どこの県かわからないが、公民館に3人いた職員がいなくなり、それでは大変と自治体で連絡協議会を立ち上げた。全240世帯の健康調査をして、薬の残量をチェックしたり薬を手配し届けてあげて「体調気を付けてね」という活動をしていた。胎内市もそんなふうになればいいと思う。
2. 介護についてだが、15年前、夫の母が倒れたときは、家族が足を運んで対応したが、近年は、デイサービス・ショートステイ等で自宅に迎えに来てくれるなど大変良くなった。ある医療機関に最近、親戚が入院して見舞いに行った。高齢で治る見込みがない患者に対する職員の言葉づかいや態度に愕然とした。気を付けてもらいたい。
3. 少子高齢化といいながら胎内市に産婦人科がないのは困る。力を入れてもらいたい。
4. 胎内市は地域でお茶の間サロン、支えあいの場、通いの場が浸透している。代表者がしっかりしている所は活発だが、代表者がいないところは活発でない。出てくる人が決まっていて、なかなか出してもらえない人もいる。これからも住民同士で見守りながら頑張っていきたい。
5. 私もサロンをしているが、リーダーがいない。65歳から80歳代が集まる。私は若いほうで先になってやっている。新しい人は入りにくく、高齢の方は抜け、先細りの状態。みんなに協力してもらっている。
6. 旧中条体育館の跡地に図書館ができればいい。
7. サロンができていいと思う。保健推進員と保健師で月に1回活動していたが、去年12

月から3か月運動指導をしてもらい、その後地域だけで活動しているが、してよかったと思う。前は男性が多かったが、今は4～5人に減っている。

8. 40歳代の立場で子育て、夫、親の世話がある。民生委員さんが訪ねて来て、サロンをすすめられるが行きたがらない。母は一人暮らしをしていたが、倒れて胎内市の小規模多機能型居宅介護が利用できず、新発田市の老健にお願いし利用している。
9. 夜遅くコンビニ等に高校生がいたら、声を掛けてもらえるといい。
10. 中年男性のメタボ改善指導をしていただきたい。ふれすぽ胎内のいいところがある。
11. サロンの年間計画をたてる時、認知症の劇、昔語り、フラダンス等声を掛けてもらうといい。社会福祉協議会に届けている。
12. 中央公民館の調理室は古い。
13. 若者向けの体力づくり、スポーツ推進に取り組んでほしい。高校生の体力が落ちていると思う。若者向けプログラムを立ち上げられたらいい。メタボ改善の料理教室を夜の部、土・日曜日の部があるといい。
14. メタボ対策や病気にならないための食生活、体力づくりで医療費が抑えられるといい。
15. 産業文化会館等でイベントがあったときは、団体を応援する意味で参加してほしいし、有料の入場券も買ってほしい。
16. ごみの収集で8月は生ごみを出せずに困った。8月のお盆休み前に収集日を設けてほしい。
17. 冬の除雪は学校のまわり、保育園の除雪を丁寧にしてほしい。国道7号線のすき家の交差点の除雪が悪いので良くしてもらいたい。

【3班】テーマ：『産業・雇用・生活基盤について』

(米粉について等)

【参加者】

*女性：7名

*議員：まちづくり常任委員会（4名）

委員長 渡辺 秀敏 、 副委員長 渡辺 栄六
委員 丸山 孝博 、 森田 幸衛

【渡辺秀敏委員長のコメント】

産業、雇用、生活基盤等のまちづくりについてをテーマとし、開催日が11月17日で「微細米粉発祥記念日」であったことから、米粉についてを中心として意見交換を行いました。まず、米粉条例の説明を行った後、米粉の普及率などの現状や今後の展開について意見交換が行われました。活発な意見交換により、今後の参考となる貴重なご意見をいただきました。

【発言要旨】

1. 米粉は、胎内市の農家生産者の原料を使用しているのか。胎内市が発祥なので、付加価値を付けてブランド化していければ良い。
2. 米粉は、うるち米の原料ともち粉などがあるが、米粉と上新粉を使用してお菓子を製造している。
3. 新聞等に小学校で米粉を使った料理教室を取り上げていたが、今後も学校で続けてもらいたい。
4. 家庭では、子どもがアレルギー体質だったので、米粉を使っている。子どもが高校生になり、活動範囲が広がり、いろいろな食べ物に触れる機会が増えることで、米粉の良さや魅力が薄れてしまう。
5. 市議会のフェイスブック等で米粉について、情報発信したらどうか。
6. 家で作った米粉のお菓子を高校生等にSNSで発信してもらえば良いのでは。
7. 県内各地で米粉を発信しているが、微細米粉は胎内市が最初だということをもっとアピールするべきでは。
8. 家庭で米粉を使用している割合は、5年前ではゼロだったが、現在は1パーセントと少しずつ増えている。また、学校で米粉を使用したメニューが月7回と増えている。
9. 小麦粉に比べると米粉は価格が高いが、生産者のことを考え、また、グルテンフリーやヘルシー等の米粉の良さを発信することが大事ではないか。
10. 新潟は食べ物全てが美味しい。しかし、発信力が弱いし、アピールも弱い。新之助を使

った米粉をブランド化して魅力をアップしたらどうか。

11. 胎内市産米粉の海外流通はどのような状況か。
12. 食の「わいわい会議」で東京のネスパスに出している「タイナイ」の米粉パンが一番売られている。
13. 神林や岩船の村上方面では、米粉を常備している一般家庭が多い。
14. 米粉用米には、国の助成金はあるのか。
15. 米粉を使ったお土産など、一覧表にしてもらえれば分かりやすい。
16. 市内には、住宅建設やアパートが多くなった。市内に住んでくれる人が多くなると良い。